

感染研市民セミナー(第42回)

「くらしに役立つ病気の知識」

ダニに咬まれて発症するだけでなく、ペットから感染することが確認された重症熱性血小板減少症候群：変わる治療法と予防法

国立感染症研究所(村山庁舎)では、毎日を健康に明るく過ごすための情報を、分かりやすく提供する市民公開セミナー「くらしに役立つ病気の知識」をシリーズで開催しています。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、2013年に日本でも流行していることが確認された新しい感染症です。致命率は約20%で、大変重い病気です。流行はこれからも続きます。SFTSは、人がマダニに咬まれてSFTSウイルスに感染し、発症するとされてきましたが、2017年にはネコやイヌからSFTSウイルスに感染した患者が確認されました。

これまでの対策に加えて、動物からの感染予防にも配慮が必要です。このような状況を踏まえて、私たちは治療法や予防法(ワクチン)の開発研究を進めています。

日本におけるSFTSの流行状況や、治療・予防法の研究に関する最新の成果を紹介したいと思います。

皆さま、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

講師:西條 政幸(ウイルス第一部長)

(質問コーナーもあります。)

日時:平成30年1月13日(土)

10:00~11:15(受付は9時半より)

場所:国立感染症研究所村山庁舎

参加費:無料(申し込み不要)

お問い合わせ

東京都武蔵村山市学園4丁目7番1号

国立感染症研究所村山庁舎

TEL: 042-561-0771

FAX: 042-565-3315

